

# 北見工業大学学報

第231号 (2009年1月号)

## 目 次

年 頭 挨 拶	平成21年学長年頭挨拶……………	2
入 試	平成21年度推薦入学試験の実施……………	4
	平成21年度大学入試センター試験の実施……………	4
研 究 助 成	平成21年度科学研究費補助金申請件数一覧(学科等別)……………	5
	(財)河川情報センター 平成20年度研究助成 交付決定……………	6
	平成20年度共同研究の受入状況……………	7
	平成20年度受託研究の受入状況……………	7
	平成20年度奨学寄附金受入状況……………	7
人 事	人事異動……………	8
諸 報	「NEDO若手研究 Grant」公募解説セミナーを開催……………	9
	AEDを用いた救急救命講習会の実施……………	10
	ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」……………	11
	「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」第3期事業開始……………	13
	薬物乱用防止講演会を実施……………	15
	個人情報保護研修を開催……………	16
	北見工業大学「技術士養成支援講座」の開講……………	17
日 誌	12月・1月……………	18

## = 年頭挨拶 =

### 平成 21 年 学長年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます。

この年末、年始は曜日の関係で、例年の5割増しの9連休という長い休暇となりましたが、皆様いかがお過ごしだったでしょうか。

初詣をされたり、故郷へ帰られたり、寝正月などで昨年1年間の疲れを癒されたりなど様々に過ごされたと思いますが、何はともあれ本日の仕事始めに新たな気持ちで出勤され、この新年交礼会に皆様方が健康で臨められたことは私の一番の喜びとするところであります。今年1年もご家族共々心身ともに健やかに暮らせる幸せに満ちた年になりますことをお祈り申しあげます。

昨年は、9月のアメリカ証券大手の経営破綻に端を発し、暗いニュースが席卷しましたが、国立大学はマスコミが年末に発表する重大ニュースに取り上げるような大きな話題もなく、一見穏やかな年でありました。しかし、学科等との懇談会でも触れさせていただきまされたように、先の内閣が国立大学への運営費交付金を従来の効率化分としての対前年度マイナス1%に加えて重要課題推進枠に当てるためさらに2%深掘りしてマイナス3%とするシーリングを閣議決定したものですから、それを阻止すべく年末ぎりぎりまで各大学の学長も駆り出され攻防が繰り広げられました。

その結果、深掘り2%分は重要課題推進枠で取り戻せることになり、実質1%減ですみましたことをまずご報告致します。1%は削減されるわけですから喜んではいけないのですが、正直ほっとしております。



引き続き内示されました平成 21 年度の概算要求の結果ですが、本学は特別教育研究経費の教育改革枠では新規に大学院での即戦力技術者養成プログラムが認められ、研究推進枠では継続事業でありますバイオリファイナリーと連携融合枠の未利用エネルギー研究分もそれぞれ認められ、所期の目的を達成でき喜んでおります。

また、施設関係は現在最後の大型改修工事が進んでいるところで、その移転費などが予算措置されたほか、要求していましたライフライン再生事業にも予算がつかしました。

これらの予算要求にあたりご尽力いただいた関係の皆様方にこの場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

今年はいよいよ法人第一期の最終年度に入り、昨年から大学法人評価委員会の評価を受けて来ておりますが、業務実績の結果が11月に出されたのに引き続き、この後2月には教育・研究の評価結果が公表されます。

第三者による評価ですから蓋を開けてみるまで予断は許されませんが、訪問調査などを受けた感触ではそれなりの評価がいただけるのではと期待しております。

そのほか今年には1年次の学生が3月に学科を決めることになるなど、新たに取り組まなければならない課題が少なからずありますが、教職員全体の情熱と意欲と努力で解決していきたいと思っております。

皆様方の今年のご活躍を祈念致しまして、新年にあたってのご挨拶と致します。

改めまして新年明けましておめでとうございます。



2009年1月5日

学長 鮎田 耕一



## = 入試 =

### 平成 21 年度推薦入学試験の実施

(入 試 課)

平成 21 年度推薦入学試験は、小論文及び面接試験が 12 月 5 日(金)に実施され、12 月 17 日(水)に合格発表が行われました。

各系列別の合格者等については下表のとおりです。

系・学科名		募集人員	志 願 者	合 格 者
機 械 ・ 社 会 環 境 系	機 械 工 学 科	40	57	48
	社 会 環 境 工 学 科			
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 系	電 気 電 子 工 学 科	35	47	36
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科			
バ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	バ イ オ 環 境 化 学 科	28	43	35
	マ テ リ ア ル 工 学 科			
計		103	147	119

### 平成 21 年度大学入試センター試験の実施

(入 試 課)

平成 21 年度大学入試センター試験が、1 月 17 日(土)、18 日(日)の両日実施されました。

本学会場の志願者は昨年度より 24 人減の 724 人となりました。

= 研究助成 =

平成21年度 科学研究費補助金申請件数一覧(学科等別)

(研究協力課)

平成20年12月末現在

研究種目等	機械工学科		社会環境工学科		電気電子工学科		情報システム工学科		バイオ環境化学科		マテリアル工学科		共通講座		センター等		合計	
	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円
特別推進研究																	0	0
新学術領域研究 (研究領域提案型) (計画研究)	1	12,000															1	12,000
新学術領域研究 (研究課題提案型)																	0	0
特定領域研究 (計画研究)																	0	0
特定領域研究 (公募研究)											(1)	(1,600)					(1)	(1,600)
基盤研究(S)											1	88,800					1	88,800
基盤研究(A) (一般)	1	22,430	(1)	(6,300)							1	28,300			(1)	(5,000)	(2)	(11,300)
基盤研究(A) (海外学術調査)											1	18,450					1	18,450
基盤研究(B) (一般)	3	19,993	(2)	(5,400)	1	3,700	(1)	(1,600)	1	11,220	3	37,865			1	12,038	(3)	(7,000)
基盤研究(B) (海外学術調査)			1	7,240					1	4,750			1	1,150	1	6,798	4	19,938
基盤研究(C) (一般)	13	31,448	(1)	(800)	(5)	(4,500)	(1)	(800)	(4)	(2,800)	4	9,077	4	4,995			(11)	(8,900)
挑戦的萌芽研究	4	6,757	5	12,900	1	2,653	(1)	(700)	2	5,570	2	5,150	(1)	(1,100)			(2)	(1,800)
若手研究(S)			1	18,300											0		1	18,300
若手研究(A)					1	1,600					(1)	(3,200)					(1)	(3,200)
若手研究(B)	2	6,221	(1)	(700)			(1)	(700)	1	3,490	3	8,639	2	1,715	(1)	(1,400)	(3)	(2,800)
計	24	98,849	(5)	(13,200)	(5)	(4,500)	(4)	(3,800)	(4)	(2,800)	(2)	(4,800)	(1)	(1,100)	(2)	(6,400)	(23)	(36,600)

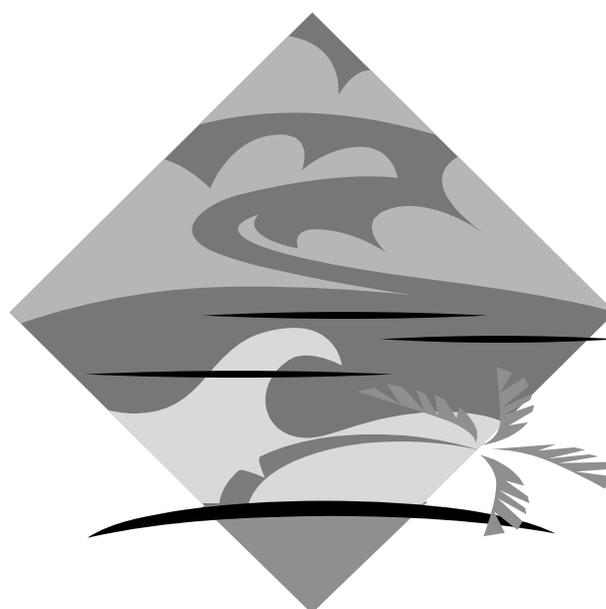
※備考 1 上段( )内は継続課題の内定数で内数

2 金額は平成20年度申請(内定)額

(財)河川情報センター 平成 20 年度研究助成 交付決定

(研究協力課)

所属	職名	氏名	研究課題	交付金額
社会環境工学科	教授	中山 恵介	風波の発生が海水侵入におよぼす影響評価	1,361 千円



## 平成20年度共同研究の受入状況

平成21年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
社会環境工学科	教授	前田 寛之	ホタテ由来廃棄物の飼料化、肥料化に関する研究(鉱物資源の有効利用に関する研究)	(株)池知建設
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	ホタテ由来廃棄物の飼料化、肥料化に関する研究(発酵技術等の開発研究)	(株)池知建設
機械工学科	准教授	三木 康臣	寒冷地仕様・集合住宅向けソーラーシステムの開発	(株)大阪テクノクラート

平成20年度累計 91件

## 平成20年度受託研究の受入状況

平成21年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費 円
社会環境工学科	教授	中山 恵介	平成20年度運河網に適用可能なシミュレーションモデルの改良業務	国土技術政策総合研究所	5,299,350

平成20年度累計 21件

## 平成20年度奨学寄附金受入状況

平成21年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
社会環境工学科	教授	中山 恵介	「世界遺産“知床”を例とした同位対比および分布型流出モデルによる栄養塩循環過程解明」に関する研究のため	(財)住友財団	1,400,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	風波の発生が塩水侵入におよぼす影響評価の研究のため	(財)河川情報センター	1,361,000
バイオ環境化学科	准教授	中谷 久之	バイオ環境化学に対する寄附のため	カルプ工業(株) 複合材料研究所	500,000
バイオ環境化学科	教授	吉田 孝	廃棄物再生技術に関する研究のため	(株)東芝	300,000
電気電子工学科	教授	谷本 洋	ポリフェーズフィルタのLSI設計に関する研究のため	(株)ロジカルプロダクト	3,000,000
社会環境工学科	助教	中村 大	工学研究のため	(有)シー・エス・プランニング	120,000
社会環境工学科	准教授	高橋 清	工学研究のため	(株)ドーコン	1,000,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	工学研究のため	(株)ドーコン	2,000,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	学術研究助成のため	(株)構研エンジニアリング	1,500,000
社会環境工学科	准教授	永禮 英明	工学研究のため	(株)開発調査研究所	100,000
国際交流センター	教授	山岸 喬	工業研究のため	小太郎漢方製薬(株)	400,000

平成20年度累計 62件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
20.12.1	(新規採用)	小原 伸哉	工学部教授
〃	情報図書課事務職員	白鳥 和枝	育児休業(期間:平成22年3月31日まで)
20.12.31	研究協力課国際交流推進室長	河合 隆	辞職
21.1.1	研究協力課主任	二村 肇	研究協力課係長
〃	(新規採用)	常田 妃登美	技術部大学運営支援室情報処理支援グループ開発運用係技術員



## ＝ 諸報 ＝

### 「NEDO若手研究グラント」公募解説セミナーを開催

(研究協力課)

12月17日(水)、総合研究棟多目的講義室において「NEDO若手研究グラント公募解説セミナー」が開催されました。

セミナーには株式会社島津製作所産学官・プロジェクト推進室主任でNEDO新技術調査委員の橋本志朗氏を講師にお招きし、青木清副学長の挨拶の後、「競争的研究資金の仕組みとNEDO申請のポイント」と題した講演を行いました。

セミナーでは橋本主任による「産業技術研究助成事業(若手研究グラント)」の制度説明や申請書の提案方法についてのアドバイスに加え、過去に本事業に採択された本学の2名の教員による意見やアドバイスなども聞くことができ、大変有意義なものとなりました。

当日は若手の教員を始めとする22名の研究者の方に参加いただきましたが、皆講師の話に熱心に耳を傾けており、本事業の申請に向けての意欲を伺うことができました。



セミナー会場の様子



青木副学長の挨拶



NEDO若手研究グラントについて講演する橋本 志朗 氏

## AEDを用いた救急救命講習会の実施

(施設課)

12月24日(水)、本学にて北見地区消防組合職員を講師に招き、教職員を対象とした救急救命講習会を1号館コミュニケーションアトリウムで実施し、25名が受講しました。

参加者は、北見市における救命処置の現状や、救命処置の流れについて本学に設置されているAEDを教材に説明を受けた後、人形を用いて心肺蘇生法やAEDの実施訓練を行いました。2名ずつ組をつくり心肺蘇生を行う

役とAEDを操作する役を交代しながら、疑問が生じたら積極的に質問し、熱心に訓練を行っていました。

訓練終了後、参加者に普通救命講習I修了証が渡され、講師から「人命救助には早期の処置と通報が大切。もし要救護者に遭遇した時には協力して頂きたい」という言葉で締めくくられました。参加者は非常時にも迅速に対応できるよう自信をつけたようでした。



AEDを使った心肺蘇生訓練に取り組む参加者

## ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」

(社会環境工学科・教授 高橋修平)

本学5回目のウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」が1月5～7日に行われました。全国高校生を対象にし、北見工大には53名の応募があり、選ばれたのは九州から北海道までの20名です。

1日目午後、開講式の後、メタンハイドレートほか学内の研究施設を4カ所見学してバスで出発しました。屈斜路研修所に到着して食事後、さっそく講義開始。「雪と氷」の話(高橋)では雪結晶の種類がたくさんあることを知り、原田康浩先生の「寒冷地光学現象」では虹や幻日などの大気現象のしぐみに感心していました。

講義の後、星空を見に全員で外へ。オリオン座からこいぬ座までよく見え、生徒達は雪の中に寝転がって空を仰ぎ、「きれい！」を連発していました。

2日目、まずはバスで摩周湖、硫黄山を訪れ、赤外放射温度測定に慣れてから、いよいよ仁伏温泉からスノーシューをつけ、ポンポン山トレッキング。生徒は5グループに分かれ交代でラッセル体験。初めての雪山歩行にあちこちで歓声があがっていました。途中からは踏跡もない新雪をラッセル。先頭に出た高校生は「この雪は大変！！」と足が取られながらも大はしゃぎしていました。第2ポンポン山に着いて、耳を澄ますと、コオロギがかすかに鳴いていました。第一ポンポン山に戻るとスタッフが用意した温かいおでんに、みな感激。研修所に戻り、さらに外で積雪観測を頑張った後、「南極の氷、北極の氷」(館山先生)の講義。夜の、景品付き「雪氷クイズ」は班対抗で大盛り

上がりしました。

3日目、午前中は班ごとの研究発表会を行いました。その場で実験をしたり、模型を作ったりと個性的な発表会となりました。午後、帰りのバスの中での感想会では、「『興味あることを学ぶということがこんなに楽しいものなのか』ということを知りました。ありがとうございます。」という生徒の言葉に、スタッフ一同、疲れも吹き飛びました。

学生支援課の斉藤靖子さん、大甕さん、知財本部の岩崎さん、加えて5人のTAの学生さん、日本科学技術振興財団の新元さん、スタッフもみな楽しみながらのキャンプ、ご苦労様でした。



赤外カメラによる温度観測(硫黄山)



スノーシューをはいてポンポン山を探索する高校生たち



第2ポンポン山へは新雪のラッセル

## 「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」第3期事業開始

(研究協力課)

平成 18 年度文部科学省科学技術振興調整費として採択を受けた標記事業の平成 20 年度第3期生の開講式・オープニングセミナー・交流会を1月15日(木)に実施しました。(講義開始は16日(土)より) 当プランは不況により業種転換を迫られている建設関係業界、及び後継者不足に悩む農林水産業への支援を目的とし、オホーツクブランドの確立と、第一次産業の工業化(大規模化・精密化・差別化・高付加価値化)を目指し、生産から販売までの一貫した行程を学び、最終的にはこれら工学・農学双方の技術・知識を身につけた人材による起業化・事業化・後継者育成を図ろうというものです。

事業の内容は1年目の座学から始まり、次年度の実習を経て2年計画での人材育成事業で、第1期生13名・第2期生11名に続き第3期生14名が決定しました。開講式では、高橋信夫理事・副学長のエールを込めた挨拶に引き続き、高橋修平教授(教育プログラム担当)と山岸喬教授(実習プログラム担当)によるオリエンテーションが行われ、事業の推移、3年間で充実した実習用機器類の紹介もなされました。

オープニングセミナーでは、(独)科学技術振興機構(JST)の宮岸明:科学技術振興調整費業務室主任調査員による「地域再生人材創出拠点の形成プログラムによる日本各地での取り組み」の講演が行われ、現在35件の採択となっている事業中、本学と同類の食に関する10件の他大学例の紹介があり、本学事業の成果への期待が述べられました。引き続き本学バイオ環境化学科:佐藤利次准教授による「シイタケの栽培廃液を利用した環境浄化に関する研究」の講演があり、地場産業廃棄物の意外な有効利用は、方向性を示す大きなヒントとなりました。



開講式風景



高橋信夫 理事・副学長挨拶



高橋修平教授の教育プログラム・オリエンテーション



山岸喬教授の実習プログラム・オリエンテーション



JST宮岸主任調査員 講演



佐藤敏次准教授 講演



(株)セルフウイング平井代表取締役講演

最後に、自らが「Japan Venture Awards 2008」で「起業家教育部門」において中小企業庁長官表彰を受けている(株)セルフウイング:平井由紀子代表取締役の「地域における産学連携による人材育成の必要性」について講演があり、6歳からのベンチャー教育・関与した様々なベンチャー成功例とその理由など、興味深い事例紹介があり、本学事業への讃辞もいただきました。

セミナー終了後、交流会の開催となり、2期生も交えた和やかな歓談がなされる中、3期生から、「何とか現状を打破したい、自己スキルを上げたい。」という強い抱負が語られ、本学関係者・学外講師陣・受講生、それぞれが目標達成に向け決意を新たにしていました。



交流会で挨拶する鮎田学長

## 薬物乱用防止講演会を実施

(学生支援課)

1月26日(月)、本学講堂にて、近年、大学生による大麻所持等、薬物乱用に関する報道が相次いでいることから、学生へ薬物に関する正しい知識を身につけさせることを目的に、北海道ダルクの松尾周氏を講師に招き、薬物乱用防止講演会を実施しました。

講演では自身の体験をもとに、「寂しさを紛らわすために薬物に依存したこと」や「薬物により全てのものを失ってしまったこと」など、薬

物がもたらす心身や社会への様々な影響、また、「依存症は完治しないが、生き方を変えることで成長することができる」「うそをつかない生き方が大切」といったことが語られました。

講演に参加した学生からは、「薬の怖さを改めて知った」、「実体験を聴き、薬物のことがよく分かった」などの感想が寄せられ、「薬物には絶対に手を出してはいけない」というメッセージが学生の心に深く刻まれたようでした。



講演会の様子

## 個人情報保護研修を開催

(企画広報課)

1月27日(火)、総合研究棟多目的講義室において、平成20年度個人情報保護研修を開催しました。

この研修は、保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図るため毎年開催されているものです。

今回は、本学情報処理センター升井洋志准教授による「身近なところから始める個人情報

保護」と題して講演が行われ、約40人の教職員が出席しました。

講演では、個人情報漏えいの事例やその対策、パソコンを使用するに於ける心構えやセキュリティソフトの利用方法、個人情報の取扱いに関する学内規則等について、スライドを使った解りやすい説明がなされ、受講者の個人情報に対する意識も高まり、大変有意義な研修となりました。



講演をする升井准教授



研修の様子

## 北見工業大学「技術士養成支援講座」の開講

(研究協力課)

1月30日(金)、札幌サテライトにおいて、平成21年度「技術士養成支援講座」の開講式を開催しました。

本講座は平成19年度から行われているもので、札幌在住の本学出身技術士6名及び北見在住の2名が講師となり、技術士の資格取得を目指す方を対象に、講義や添削指導により取得を支援するものです。開講期間は1月から7月までの第1月曜日・第2金曜日の合計13回、開講時間帯は18時からの2時間とし、社会人の方が受講しやすいよう設定しています。

平成21年度の開講にあたって、本学ホームページや北海道新聞等で受講者を募集したと

ころ大きな反響があり、定員が埋まった後も多数の問い合わせがありました。

開講式当日は、受講者18名全員が出席し、まず青木副学長から各講師の方々へ「客員教授」の称号を授与した後、開講にあたっての挨拶並びに講座の趣旨説明がありました。引き続き、講師及び受講者の自己紹介が行われ、講師からは受験にあたっての留意事項、受講者からは資格取得への決意表明が行われました。また、昨年度の受講者で筆記試験を合格した先輩からの体験談が披露されました。その後休憩をはさみ、林 克恭技術士による「技術士試験のガイダンス」で終了しました。



←青木副学長からの挨拶



青木副学長を囲む講師及び受講者一同

12 月	1 月
1 日 役員会 推薦入学者選抜実施委員会	5 日 ウィンター・サイエンスキャンプ(～7日)
5 日 休講 推薦入学試験	9 日 教務委員会 集中講義期間(～15日)
9 日 先輩からの就職アドバイス(～11日)	13 日 役員会
10 日 教育研究評議会	14 日 研究科委員会
11 日 教務委員会	15 日 工農教育プログラム開講式・オープニングセミナー
13 日 リーダーシップトレーニングセミナー 合同企業研究セミナー(～14日)	16 日 休講 「NEDO若手研究グラント」TV会議システムによる公募説明会
15 日 経営協議会、役員会 学長選考会議 中国医薬大学との交流協定締結式	17 日 大学入試センター試験(～18日)
16 日 役員会 入学試験実施委員会 入学者選抜委員会 地域共同研究センター産学官連携推進員会議	19 日 役員会
17 日 教授会、研究科委員会 推薦入学試験合格発表 「NEDO若手研究グラント」公募解説セミナー	20 日 集団面接実践演習
18 日 FDワークショップ 就職ガイダンス 図書館委員会 地域連携推進委員会	21 日 教育研究評議会
22 日 冬季休業日(～1月8日)	22 日 月曜日授業振替日 就職ガイダンス 本学発ベンチャー企業意見交換会
24 日 救急救命講習会 発明審査委員会	23 日 発明審査委員会
	26 日 薬物乱用防止講演会
	27 日 個人情報保護研修 「産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)」知的財産セミナー
	28 日 コミュニケーションスキルアップ演習
	30 日 地域共同研究センター産学官連携推進員会議